

# 教育文化部会 会議録

（出席者） 委 員：10 名  
事 務 局：4 名（戦略部会員：3 名、政策推進課：1 名）  
ア ド バ イ ザ ー：1 名  
ファシリテーター：1 名

## （会議の内容）

### 1. はじめに

資料 1 に基づき、第 4 回まちづくり市民会議（第 3 回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料 2 に基づき、第 5 回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

### 2. グループワーク

第 4 回まちづくり市民会議（第 3 回部会）で抽出された「教育文化分野の課題」の解決策をテーマに、2 グループに分かれて K J 法によるグループワークを行いました。

#### ■メンバー

	グループ 1	グループ 2
委員	彦坂委員、横田委員、小澤委員、金子委員、宮内委員	廣中委員、土井委員、鈴木委員、山田委員、片山委員、高木委員、加島アドバイザー
事務局	河辺、行田、江口	土井、小塚

### 3. アドバイザー総括（加島アドバイザー）

前回よりも今回は難しい内容だと感じた。

解決策の考え方はいろいろあると思う。今日の 2 グループの意見を聞いて考えたのは、今まで解決策と言うと、うまくいっていない部分を掘り下げていけば解決していくというものであった。しかし、そういった時代は終わった。やはり、駄目な部分だけをいじっても、うまくいかない。別の見方、別のものをもってくるのが大事なのではないかと思った。専門家が、専門分野について考えていけばいいという考えはそろそろ限界であると感じた。市民協働モデル事業も一歩引いてみればいいと思う。

### 4. その他

次回開催日程は、6 月 27 日（水）18：45 からに決定しました。各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後 1 週間を期限に、提出をお願いしました。

グループ1

市民

地域

行政

**課題 1**  
少子化で学校の児童生徒数が減っており、部活や勉強、学校生活に支障が出ている

学校教育から  
社会教育へ

地域で寺子屋のようなものはできないか。ボランティアさんが週に1度学校や市民館に集まって、宿題や勉強をみてあげる

**課題の共有を**  
少子化対策は世代を超えて考える機会を共有する  
学校の実態を知ってもらうためのPR（地域に対し）

**一緒に活動する**  
市内の学校が集まって、課外授業や部活動を行う機会をつくる  
部活動の合同練習の場所の確保。ボランティアが、学校訪問しやすい環境は作れないか。朝練など、学校行事を統一して

統廃合  
(適正規模)

地域の人を指導者に

人材コーディネート  
ネットを行う

**課題 7**  
田原市の歴史・文化・伝統を知らない市民が多い。文化を育むための取り組みが少ない

学校教育（授業）に講師として、市民（団体）の方が参加する

「なぜだろう」と考えないと

**課題 9**  
文化・芸術活動に取り組む人が増えない。活動が活発にならない

地域の人々が学校に出て総合学習の時間等に歴史や文化などを考える機会をつくる  
受け入れの体制づくり

**知ってもらう工夫**  
田原市検定のレベルを少し市民に近づける(子どもバージョンなど)  
文化財マップづくり  
地域の歴史・文化財の掘り起こしをする。「わがまちマップ作り」作成。地域学習会を

観光などと合わせて、田原の歴史・文化を広げる

難しい問題ではあるが、とりあえず、有料博物館を高齢者は無料にしてはどうか。65歳以上か70歳以上

**活動する場、見ってもらう場**  
仲間づくりのためのPR(練習のオープン化)  
日常的に文化活動等が発表できる場の整備(場所・仕組み)  
活動の場、発表の場をPRできる場所・場面の確保

**文化活動のビジョンを**  
今後のスポーツ活動を広げるためのビジョンは何かを話し合う  
文化振興・スポーツ振興ビジョンの策定。方針を明確にする  
文化協会が生涯学習課より委託されている文化教室への交付金を増やして、初心者を積極的に勧誘する

**課題 5**  
子どもに安全でおいしい給食が必要では

給食メニューを地域の人人々に提案してもらう

**課題 8**  
田原市の特長である農業を活かした学びの機会が少ない

**田原市の良さを残す**  
田原の給食、何を特色・重点としてすすめていきたいのか  
課題5、課題8の目標をドッキングさせることはどうか  
農家の方に講師として生産方法など話を聞いていただき、給食で食べる

市民

地域

行政

課題 11

交通アクセスが不便であったりするなど、施設が使いにくいところがある

課題 12

身近なところで図書館を利用できるしくみが必要である

地元主体の本のリサイクル  
→市民館へ

図書館を利用したいが、交通手段に困っている人に対して送迎システムを。家の近くまで迎えに行くなど

移動図書館を。交通不便、交通弱者へのサービスへ(学校だけでなく)

図書の貸出方法の検討。ネット、郵送等の利用

課題 10

スポーツ活動に取り組む人に偏りがある、活動する環境が十分でない(施設、指導者)

各スポーツ団体と行政が一緒に、指導者の育成を推進する。スポーツ人口の少ない競技の普及・推進※

講演会の前後など、学べる場をもうける

ウォーキング大会を行う(すでにやっている)

※市民にもあてはまる

課題 6

地域の人と子どもがふれあう機会が少ない、地域差がある。人材が活かせていない

住民交流を図るイベント・スポーツ大会

グループ2

課題 2

教職員の資質・専門性、キャリアなどに差があるのではないか。

課題 3

子どもたちの心身の安全を守るための取組みが必要である。(防災・防犯・交通安全・メディアなど)

課題 6

地域の人と子どもがふれあふれあう機会が少ない、地域差がある。人材が活かされていない。

課題 8

田原市の特長である農業を活かした学びの機会が少ない。

市民

地域

行政

ねこの手をかりる

教育志望学生のインターン受入れ

学校サポートの一の導入(特に小規模校)

地域住民主催の放課後教室

先生のスキルアップ

専門知識がある先生同士で、話し合いなど意見交換すると良いと思う※

管理職による監督・指導・面接などの徹底

退職された先生の補助※

27校の総合研究発表で特別支援教育部門を設ける

教員が自分で課題だと思っていることを研修できる制度(自分自身を振り返るために、できるだけ長期に)

※市民にもあてはまる

地域のつながりを深める

パトロールの当番制、地域のおじいちゃん、おばあちゃん、両親も

登下校や学校にいない場合の避難訓練を校区等で行うと良いと思う※

交通立番の頻度アップ。町内会・PTA

地域で危険な区域をチェック。看板やMAPを作つて地域の子どもと共有

地域、交通安全、子どもたちの通学に、横断歩道、交通標識だけでなく、よりわかりやすい「看板」で表わす

※市民にもあてはまる

みんなを守る

みんな仲良く

異年齢同士の集団でひとつのこをやるような行事の展開

地域として(学生)ボランティアを受け入れる

まちコン開催にに対し、補助金を出し奨励。主体は地域住民

サマースクール、学生ボランティアを市で募集※

※行政にもあてはまる

みんなが守る

通学路表示の徹底

交通確保のための交通規制

一軒一灯運動促進※

車スピードダウン(カメラボコ設置)

※市民にもあてはまる

みんなであぐり

イベントの企画や人も参加者もその気にさせる。例：農業体験会※

農業・漁業・畜産業の体験学習(従事者が協力して行う)

農家サポート一制度を作る

滞在型農園の活用

田植えなどの体験学習。学校から授業として、PTA活動として

名物をつくる。アイデアを市民から募集

田原市産の商品のPR

花卉類の出荷見学。社会見学

※行政にもあてはまる

市民

地域

行政

課題 5

子どもに安全でおいしい給食が必要では。

給食のメニューに地元産の野菜を使う※

※地域にもあてはまる

課題 7

田原市の歴史・文化・伝統を知らない市民が多い。文化を育むための取り組みが少ない。

学校と博物館の交流。出張講座、社会見学

パンフレット。  
例：歴史探訪クラブの授業での活用

田原市の歴史、文化、伝統をテーマにした作文コンクール

課題 9

文化・芸術活動に取り組む人が増えない。活動が活発にならない。

街角掲示板の設置、ラジオ放送による広報

課題 11

交通アクセスが不便であったりするなど、施設が使いにくいところがある。

使用しなくなった保育園などを、児童館として再利用できないか（お年寄りなどにボランティアをもらい、子どもを見てもらえると助かる）

ぐるりんバス  
全通※

※市民・地域にもあてはまる